

京都ソリデール事業視察 会議録

2019年7月4日
於 京都府庁舎和室

【出席者】

京都府建設交通部住宅課：岡田 有資 課長、椋平 芳智 計画担当主幹兼係長

小平市議会議員（氏名順・敬称略）：伊藤 央、中江 美和、橋本 久雄、安竹 洋平（記）

【内容】

挨拶	1
事業の狙い	2
予算	3
連携体制（アドバイザー・マッチング事業者等）	3
実績	4
募集チラシ	5
フォーラム	5
今後	5
視察議員からの質問	6

【挨拶】

岡田課長

国土交通大学校がありますんで、何を勉強したかまったく覚えておりませんで、あそこでソフトボールをしたとか、宴会をしたということは覚えておりますが（笑）、学園町というか。

伊藤

この三人が近所です。

岡田課長

あの辺、そういう覚えがあるところやなと思いつつ見させていただきまして、そういう意味で少しでもお話がまた小平でもやっていただければ嬉しいなと思います。選挙の直前にもかかわらず、お時間をいただきありがとうございます。私たちなりの取り組みでございます。はっきりいって全国的に大規模にこうやって取り組もうというようなスキームでやっているわけではございません。マイナーな形で取り組まさせていただいておりますので、その辺でご紹介させていただきたいと思っております。狙い等がございましたら。

伊藤

お世話になります。本日よろしくおねがいたします。また、お忙しい中、我が会派の視察を受け入れていただき、ありがとうございます。小平市も今人口は微増しております、ちょっとずつまだ増えていて子供の人数も増えてはいるのですが、高齢化率は年々上がっております、今23%くらいだと思いますが、その中で大学がけっこう市内にありまして、武蔵野美術大学とか、今回ちょっと新紙幣で注目を浴びた津田梅子さんの津田塾大学、それから嘉悦、白梅大学、白梅短大、それから一橋大学の元の校舎があっいま国際キャンパスと寮があるんですが、いま国立に移りまして。

岡田課長

なくなっただけですか、前はありましたよね。

伊藤

いま校舎はのこっていますが、留学生と学生寮という形になっていますね。ということで6あるんですかね、いま。という中で、以前、もう一年くらいたつかもしれませんが、私が夕方のニュースかなにかでこの取り組みを取り上げられているのを見まして、我が市にもひょっとしたら取り入れることができるかなということでちょっとお話を伺いたいということでお願いした次第でございます。本日しっかり学ばせていただきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事業の狙い】

岡田課長

えーっと、この事業の側面というのはいろいろな側面がございまして、こちらが深く狙っている部分と、まあ表面的に、こういうことで進めていこうという、大きくは二つありましてですね、京都ソリデール事業、表面的な面としては、この1で書いてありますように、大学生、なんで大学生にしているのかという、奥の考え方がひびいてきているんですけれども、働いている方はとくに今は対象にしていない、大学生、これは別途狙いをお話しさせていただこうと思うんですけれども、**大学生等の等というのは高校生も入ります。**そういう方へ低廉で質の高い住宅をとということと、いまおっしゃっていただいたような高齢者世帯のほうが、二階がからっぽになっちゃってるよというところがありますので、そういったところへ自室の一室を提供していただいた方とのマッチングをですね、大学生と高齢者の方がやっていただくということで、まあ住宅提供もできるし、安い住宅へ入ることもできるし、高齢者の方からしてみたら、お話相手も常々できて、悪く言えば老化も防げるよというようなことになったり、そんな悪い意味がなかったとしても、家族の付き合いのようなコミュニケーションをして豊かな大学生活が送れるよというような、高齢者についても安心して暮らすことができるよというようなシステムになっている。そこが表面的なところでございまして、なんで大学生かというところからなんですけれども、実は京都、大学の街なんですけれども、まあ大学には京都に来てくれるんだけど、働くのは大阪と東京へ行かれるんですよ。そこでなるべくこの**大学生を京都にひきつけたい**と。ゆうのが実は京都の思いでございまして、そういったことで、京都の魅力を大学生の人に知ってもらいたいと。実は京都、公式的ではないんですけれども私の思いとしては、祇園祭とかの、町屋とかで、祇園祭でひいたりするでしょう、そののまにこれできんかいなと思ひまして。それで大学生が祇園祭の鉾を引く、町内にいはったら、京都に住みたいなと思ひはれへんかなと。京都にはそういう文化がいっぱいありますさかいに、京都の魅力を大学生に知ってもらいたい。そうすることによって、**大学生の方が京都に就職したり、たとえば就職しなかったとしても、京都にいい思いを持っていただきたい。**いい思いを持っていただくという視点は小平さんも同じやおもうんですけれども、そういういい思いを持っていただくと思ったら、どこでもある**ワンルームマンションの下宿にはいるんだったら、たとえば京都においても大阪においても小平においても一緒**ですよ、大学との関係だけですから、そうではなくて、そこのお母さん、京都のお母さんがいはるというものを、京都でつくることによって、その**四年間の大学生の生活を京都らしいものを感じてもらって、豊かになる**のとちがうのかなと。そういったことを思っこの事業を進めます。

そういう、そこまでほんなら実際京都に就職した人は何人おるのとか、京都に対する思いはどこまで高まったのというところは把握していないところがあるんですが、やはり京都の魅力というのはそんな表面的な話じゃなくて、こういう高齢者の方を通して京都のことを知っていただくというのが、一番京都のいい面を知っていただくやり方だと思っておりますので、そういうことをこのツール、同居をするというツールをもって進めていきたい、といったことが私たちの狙いなんです。

ですから、小平は小平の魅力とかいろいろあるとは思いますが、そういったものを地域のためになる大学生も来ていただくことによって町内会も活性化したりするので、そういった面でもやはり大学生の力をお借りして進めたい、それで将来的には戻って京都に永住された場合にはその方の力を借りて京都の活性化につなげていきたいといったところで進めているところです。

新しくは27年から調査をして、実際28,29,30、3年間やって4年目に入ってきたところでございます。最初は京都市内が多かったのですが、京都は海の舞鶴まで京都でございまして、そういう地域の方にもいろいろ地域の展開をしてみたい。その辺は小平市さんと地域事情が違うと思うのですが、たとえば大学であれば先ほどいわれた一橋大学などいろいろ場所が違いますよね。枝分かれしたり校舎が分かれたり。京都のほうも、京都市内にある四年制大学の一部のコースが、真ん中のほうにある福知山というところに、大河ドラマのおそらく明智光秀にもちょっと出てくると思うんですが、そこで校舎を借りて、半年から2年か3年くらいまでその校舎で学ぶというようなことをしているところもありまして、そういう学生にとってみれば、こういう二つ、私らもそうですけれども、自宅をもってひとり単身で赴任するときにはまた家を借りるのも大変です。さかんに、なるべく安い家賃の家を福知山で借りたいという思いがあったりされるので、それも期間が短いようだったら、そんな家財道具もそろえるわけにはいかんから、簡単に住みたいんやという、レオパレス型みたいなものを、要求されてるところもあつたりすると、それも大学生の方が福知山でこの制度を利用して、安い賃金、安いお金で入らせていただくというのをやったりして、だんだん北部のほうに広がっているところでございます。

それですから、大学のシステムとも合わせながら、この事業を少し展開をしいているといったことでございます。そういったことを大学との連携とかもしっかりと学生課みたいなのところがありますので、そこを連携をしてこの事業展開を進めたいと思います。

予算

岡田課長

で、予算としてはこの500万でやっております、ただ、ちょっと予算のところのアスタリスク書いてありますけれども、健康福祉部の、これ、実は福祉的な観点です。どういうことかという、京都府内にいる高校生が、京都市内に大学に通う場合、京都市内で、その辺小平さんとは交通機関の捉え方が違うと思うんですけれども、やっぱり通いでできませんので、京都府内やったら京都市内へ通うおうと思つたら無理なので下宿をしなくてはならない、そういう人がいますので、そういう人で収入が少ない人については家賃を一部補助しましょうという制度なんかも持っております。そうして、それはソリデールとは別の観点で、京都からその学生が京都の大学に通うことを推進しているというような話が部局のほうであり、そういうような制度もあわせて、組み合わせてやっております。

そういうことで、私共の事業も、色々なところ、その私らの事業をキーにして、いろいろな味付けを、事業化をしているところでございます。

連携体制（アドバイザー・マッチング事業者等）

岡田課長

それで下のページが、普及と推進でございまして、私らもなにせはじめての事業でございまして、大学の先生方からアドバイスをいただきながら進めるといったことでアドバイザー、大学の先生3人をお願いをしております。団体といたしましても、そういう大学との関係や宅建協との関係、そういったこととの関係の方も協議会で参画をしていただいております。

この事業で大事なのが、その次のマッチング事業者というところでございます。おそらくテレビなんかでも放映したと思うんですが、これ裏を見て頂けますか？裏のスキーム図というのを上にいれておりますけれども、ただ単なる不動産屋さんではないということで事業をすすめております。で、一番左のほうから、大学と高齢者団体などから、要は協力要請があつたりして、いろいろと大学生の方に声をかけたり、高齢者の方

に声をかけたりといったことを色々な方面からやっております、大学生と高齢者をつなぐのに、**マッチング事業者**と私どもは名前をつけておりますけれども、それが下のほうの六社ございますけれども、その六社の事業者の方、たとえばソフトの関係で人とネットワークに対して非常に強みのある方ですね、それも実は高齢者のほうに強みのある方とか、若者の世代に強みのある方、不動産の関係に強みのある方、色々な側面の事業者さんを、このマッチング事業者として委託をしております、その事業者さんが私らが大学や高齢者の団体などに窓口として声をかけた、その方たちで出てきた大学生とか高齢者のお宅とかいうのを具体的に、今度会議やるさかい、来てくれへんかいうことをつないで、お見合いをしてもらうようなことをマッチング事業者にやってもらうんですね。で、そのマッチング事業者の方が、そのお見合いみたいに、まあお見合いといいます、**共同でいわば宴会をするみたいなものなんです。雑談をする機会を設けるようなもの、****そうやって相性の合う方をお互い納得してもらったうえで、実際の部屋を見てもらったり、試し入居とかもしてもらったりなどしながら**、一番右側にあるような実際の（～？）同居に入るといったやり方をとっております。そういうことで、ただ単に空いてる部屋だから空きましたということではなく、一緒に生活してもらうというようなシステムにしておりますんで、相性が合わないとか当然合わない、ということもあるので、そういう面をお互いに人まで含めて納得いった形ですすめさせていただいて、同居を進めるということにしたいと。

で、これで終わりました、それで、こういう連絡会議、一枚目の下にありますように、マッチング事業者の連絡会議とかですね、町内、いま言いましたような、たとえば大学の関係があったり、高齢者の世帯があったり、あと京都府内の北部から京都市内へ学生に対して支援とかいうのとかで家庭支援課とかがやっております、その関係機関の**京都府の中の連携体制**でやっているところでございます。で、色々な方面からアドバイスを頂きながら事業を進めています。

実績

岡田課長

二枚目が実績でございまして、この三か年なんですけれども、要は一番最初にここでいう左側の方にですね、希望の高齢者というのは私らの方で進めているが 32 世帯、大学生が 31 人、同居の成立したのがいままで 17 組だけ、いま 19 組か。

椋平主幹

新規が 4、4、13 で 21 組というのが昨年度末の状況です。

岡田課長

合計が 28 が 4、大学生なので 4 年で卒業したりしますので、要は成立したのが括弧書きのところ。28 は 4、29 が 4、30 が 13 ということになって、成立をしたのが合計が 21 になります。

それで**今年度 3 組で、いま 24**です。

安竹

学生さんは 24 名ということですね。

椋平主幹

はい 24 です。高齢者さんは一部かぶっています。

岡田課長

一世帯に二人学生がいるところがあったりするので。

椋平主幹

それと卒業された後にもう一回やりたいわということ。

岡田課長

大学も色々ばらついておまして、そのように、まあですから 4,4,13 でございますから増えてきている状況であります。

募集チラシ

岡田課長

で、次の資料が、やっぱり公募するに当たって対象者が色々ありますので、この「懐かしい下宿のかたち」というのがこの高齢者用のチラシです。昔を知っていた、下宿というのがこういうのだったなというのを高齢者の方が知ってはるやろうさかいに、そういう人に撒いているチラシでして、この実際はこの写真にある三組の方、色々と発表してもろうたりですね、～していただいたりしております。それでマッチング事業の関係の、写真が裏のところにございまして、こんな感じで、和気あいあいと、おしゃべり会をしていただくと。それで誰と誰が、住んでもいいようねということでお話をいただいているということで、この中でマッチング事業者が、ドーンとどまんなかにならっしゃるのがマッチング事業者ですけども、そういう話をしていただいて、いまお二人を、うまいことできるような形で話をしております。

で大学生には昔懐かしいというても、味気がないので、もう一枚、二枚目のような形で、大学生の中へという話をしているという。

内容的には基本的には変わらないのですが、捉え方が違う、PRの仕方を少しかえてアピールをしています。で3枚目のが、7月の6日、今度の土曜日にあるのですけれども、こういうのをやるという。

椋平主幹

写真撮影したやつを、またお送りさせていただきます。どうぞ集中してお聞きいただければと思います。

フォーラム

安竹

これ私参加させていただきます、ひとりで。

岡田課長

ありがとうございます。

結構これ右下に書いてありますけれども日本大学の久保田先生とかですね、この取り組み自体に、大学の先生方も注目をされていることがよくありまして、社会学系で色々、こういうやり方、ホームシェアのやり方とかも、研究対象にしていきたいなということがありまして、実はこの6日についても、真ん中にうちのイベントをさせてい頂いて、前後に大学の先生とホームシェアの事業をやらせてもらう。この裏にあります。そんな中で、私らは1時～2時半なんですけれども、その前後に大学のといいますか、研究者の方のグループの方でのフォーラムをやっていただく、というようなことで進めております。まあ、もしくは小平の方でやるようでしたら、～また二時間～、よろしいんじゃないでしょうかと思います。これは一般のチラシでございます。で、先ほど伊藤さんがおっしゃったように、あの他にも、あれ、これ同じじゃない？

椋平主幹

失礼しましたおまちください。

橋本さん

福島で取り上げられたものがあるんだね。

岡田課長

狙いは、聞いておりましたら、**大学生という視点ではなくて、高齢者世帯の住居をなんとかしたい、そういう思いでアプローチをしてる**ということをおっしゃってました。

橋本

なるほど

今後

岡田課長

それはそれでよろしいんじゃないかなと。というためにも、こういう事業がひとつは役に立つのではないだろうかということでご紹介をしているんだということでお話がありました。

ということで、まあ将来的には事業が増えれば、京都府の冠りは残しつつも民間ベースでうまいこと動きへんだらうかな、というのを最終目標にはしております。

たとえば、今私らが委託業で500万の中で各事業者に50万ずつ払っているんですね、それをもっと件数が増えれば、手数料とか、家賃収入の中の一部をマッチング事業者の方に回していただくという形で数をこなせばそれができる可能性があると思っておりまして、そういう風な動きができる状況までしっかり取り組んでいって、数がこなせる民間ベースのやり方になれば、社会的な潮流が生み出せば、そういった形に引き継いでいきたいなということを思っております。

そういうことで私らの事業としてはそういう形で今進めさせていただいて、四年目を迎えたという状況です。

視察議員からの質問

伊藤

ありがとうございます。それでは質問等ございましたら。はい、中江さんどうぞ

中江

まず、たとえばリフォーム補助制度の創設ってあるんですけども、それはその貸してお客様がやるよってなったときに、そういう補助は出るんですかというのと、あと家賃とかのやり取りってどういう取り決めで行ったりしているか、2万5千円、だいたいお金に対して2.5から3という、そのあたりの取り決めってどのように行っているんでしょうかというのと、

あと大学生とやるよという高齢者で相性ってあると思うんですよ。そういうのを実際にやりますって成立するまでに何回かやったりやりとりをするんですか、お互い同士に。そのあたりを教えてください。

岡田課長

まずリフォームなんですけれども、新しい制度、どこでもよくあると思うんですけども、起動に乗せるまでの制度として三か年補助をやりますという形で取り組みましたので、実は今年度はない。ハード事業でございますので、一辺直したら、大学生がどんどん変わっても同じ箱になりますから、ずーっとやっているというのは、制度的にはあんまり、ハードに対してお金をぼんぼん出すというのは困難なところがありますので、推進をする役目としてリフォーム補助を当初三か年間設けたということでございます。いまないのはないということですけども、この三か年間に上限90万で、補助をさせていただきました。補助金が90万円なので、補助1/2で、180万までの事業ですね、補助対象にしております。実績としては、28年度からいうと2件、3件、4件、ちょうど9件かな。たとえばあのトイレを直しましょうとかですね、その簡単なことでいうと、鍵をつけましょうとか、そういったものまで、ちょっと大きなことからちいちゃなことまでやらさせていただいております。

家賃の関係なんですけれども、これはこっちで特に決めたということではないですけども、まあいわば商売で高齢者の方はやっているわけではございませんので、だいたい2万円から2万5千円、3万5千円というようなことで進めているのが現状でございます。こっちとしてはなんぼでないとだめですよというようなことは言っていないんですが、マッチング事業者の方からはだいたいこんなものですよとお話している状況。価格は東京の中では地域の事情で単価が変わると思うんですけども（高いですよ）、そういうことでももしかすると東京の方がメリットがあるかもしれない。商売にならなくてもいいよということなら安くなるかもしれないということなので。

マッチング事業者さんとの関係の、お見合いの回数とかいうのは、必ずしも一回ではできていない。何回か積み重ねてやっておられる方もおられますし、逆に一辺同居しても、ちょっと合わないということでもやめられた方もおられます。それは個人の自由もそうだし、大学生のご家庭の事情とか、大学生の学生のもう私ちょっと東京のほうに帰りますとか、大学の都合によって変わったりされたりするので当初通りずーっと継続している方ばかりではありません。様々な事情で別れることはあります。それはそれであるやろうなというのがございますし、そういう面からしても、あんまりハード事業にテコ入れをすると、そんならそれについ

て出たところの家どうするのということになり行政的な課題も出てきますので、そういう意味でもハードは当初だけにしたという感じ。

伊藤

いいですか。安竹さん、いい？

安竹

けっこう増えてきて、希望の大学生も 30 人~31 人、希望高齢者の方も 10 世帯ずつ増えてきている感じなんですけれども、これ最大っていうのは、増えれば増えるほど増えちゃうところはあるんですかね。けっこう対象となっている大学がここに書かれているんですけれども、だいたいどれくらいを見込んでらっしゃいますか？今後増えていく状況で。

岡田課長

想定としてなんぼというのは特にはないです。一度算定をしているのは、さきほど言った京都府がやってる話って、民間ベースでやる場合だったらどれくらいでいけるかと算定して、50 件やったかいなあのとき。

椋平主幹

あの、すみません、覚えてません。

岡田課長

たしか 50 件くらいあればなんとかペイできへんかねと、そういうことは考えておりますが、先ほど言ったように社会現象になるのを目的にしておりまして、うちが全部面倒を見るのではないよと。ある一定の時期からは京都に下宿するんやったら、大学に行くんやったらこんな方法があるよということを、みんなに知ってもらってどンドンドンドン広げていこうというのが目標でございますので、行政の成果みたいな形で、何戸までやるのが目標で、それでクリアだというような選定はしていない。そう意味ではなく社会現象になるような状況を生み出すためにいま努力をしている、そういう観点で進めている。

橋本

いいですか、では私も。フランス、東京、福井って書いてある、わたしテレビで東京なにかやっていたのを見たような記憶があるんですよ。東京だと、どこの自治体でやっているとかありますか？

椋平主幹

自治体はないです。NPO が活動してらっしゃって、いろんな NPO 活動に対する補助金を出しておられるのが世田谷と文京区、で出されたことがあるということで、継続は、してらっしゃらないと。

岡田課長

いや、しているでしょ。

椋平主幹

そうですか。

橋本

世田谷区はやっているような気がするんですけども。

岡田課長

たぶん自治会活動に参画することを条件として、というようなことでしたよね。

椋平主幹

NPO が活動してらっしゃるのは活動してらっしゃいます。行政が絡んでるのは、補助金として単発としてやってらっしゃったというのが過去形です。NPO 団体は現在進行形で、文京区の街 ing 本郷さんのいうところと、世田谷区のリブ&リブさんというところと、もうひとつすみません忘れましたが、ハート・ウォーミングハウスさん、あとは株式会社で、プリモパッソさんというところが、いま把握しているところで、実績があるところで。

橋本

なんかうまくやれば儲かりそうですね。

岡田課長

儲かるというのはちょっと語弊があるかもしれませんが、小遣いにはなるんじゃないかと。

橋本

私が聞いたかったのは、自治会とか地域の祇園祭のことを言っていましたけれども、地域の人がうまく絡むと色々な可能性が出てくるという感じがするんですが。

岡田課長

そのあたり話を聞いてみましたら、どんだけ絡んでいるのかよくわからないところもあるんですけど、たとえば大学生がここに来はったということをどういう目で見られるかということで話をきくと、やっぱりあの家に大学生の人が来てくれてはるなど。だいたいまあ高齢者のお宅の住まいの地域と言ったらだいたい高齢者の方がおおいので、そういった中で大学の人が来てくれてるというようなことを、やっぱり変わったやつがきよったんじゃないかと、やっぱり評価しているような見方で、来てくれてはるなどというような目でみられているというのをよう聞きますね。

橋本

あと、高齢者を受け入れるお年寄りの方が、たとえば元気になったとか、そういうなんかありますか。たとえばひとり暮らしでずーっと暮らしていたお年寄りが、そういう若者が来たことによってちょっと元気になる、そういう効果があるんじゃないかという気もしますけれど。

岡田課長

あると思います。おそらく土曜日に聞いていただければよくわかると思います。みなさんもともとそうなのか、同居されているからそうなったのかというのはようわからへんけれども、カラオケボックスちゃいますけれど、マイク持ったら離さへんひとばかりですよ。なにか話してくださいといったら、お年寄りの方ばかりなんですけれどもね。みなさん元気で魅力的なお年寄りが多いです、はっきりいって。やっぱりそこまで頑張ろうというようなポテンシャルが非常に高い方だと思います。

そういった方がおられるなかで、そやけどもそういう人でもやはり体調が悪いときとか、たとえばこの電球が変えられへんときとか、そういうことがあるので、体調が悪い時にいてもろうてよかったとか、高いところ、こんな事例あるんかいなと思うんですけども、風呂場の天井の掃除をしてくれたとかいうて、そんなもん一年に一辺もうちせえへんと（笑）。そういうようなことを、大学生がしてくれたらということで、喜んでくれたと話されているので、そういう意味では高齢者の方も元気になって喜んでられるということだと思います。

橋本

2.5万円～3.5万円が家賃で、そのうち補助というか支援を実施と書いてありますが、これはいくらか金額として支援をするということなんですか、

食費なども対象ですが、1/3、家賃、光熱水費、食費、まあまかないつきの場合なんですけど、そういうものを対象に1/3補助するというのを健康福祉課のほうで予算化しております。

橋本

なるほど、そうするとたとえばこの2.5万円のうちの1/3を補助してもらえると。

椋平主幹

対象者は限定されますが、対象者は親御さんが京都府内にいらっしゃる、生活困窮世帯の方です。

岡田課長

京都府内にいるので、京都市内の大学にくるので、これを利用しているという。

橋本

これは基本的にはそういうのが対象、要するに東京から京都には。

岡田課長

ない、一銭も出していない。

椋平主幹

あくまで府内の生活困窮世帯対策として、健康福祉部の方が取り組んでおります。

伊藤

家賃補助のほうで。だからこの事業自体はどこから来てもいいわけでしょう。

椋平主幹

そうです。

岡田課長

そういうことでいうと、建物の改修費の補助もいまはしておりませんので、直接、借りる人、貸す人に対しての私共の事業としての補助はいまありません。

橋本

最後になります、この500万というのは、この内訳はどういう内訳なんですか。

岡田課長

委託料が6社で50万ずつで300万、このような会場ですね、今度の土曜のような会場の啓発の借り上げ費とか広報の、ようありますよね、タブロイド版で、町内とかエリアで配ったりされているミニ新聞のようなものに広告を入れたり、そういうったものの啓発費、会場とか啓発費に残りの200万というのがだいたいのもの。

橋本

最後もう一点ですけれど、空き家は多いですか。

岡田課長

多いですね、やはり全国的には14%くらいですかね。

橋本

13とか14とかね。

岡田課長

京都は実はこの前の住宅統計調査のデータが出たと思うんですが、実は京都はちょっと下がったんです。今データ持ってきてないんですが、実はそれは実質的な空き家の数ではなく、実質的な空き家の数としては上がっていて、「その他空き家」でいうと、建て替え用の住宅に供するアパートとか、そういうちょっと～？によって空き家にせざるをえへんやつのパーセンテージが下がったので、それで全体の空き家が減ってきているが、ここでいうような高齢者の家がおらんようになって空き家になったというような実質的なニーズはやっぱりちょっと上がっている。やっぱりそういうものは上がってきていると思います。ただ、間違えたらあかんのは、これは空き家を利用するわけじゃない。空き室を利用するやつ。空き室がどれだけあるのかというのはいずれもわからない。

橋本

空き家の利活用みたいなものはやっていませんでしたっけ？

岡田課長

それは色々。国交省の方ほうともやったりしていますので。ただそれっていうのの大きな方向性というのは、補助金をだすとか、そういった面の制度というのは、空き家を住宅にするというのに補助金はないんですね。空き家を店舗にするとか、社会福祉施設にするとか、違う用途にする場合、その補助金が出るというのが国土交通省の制度としてございますので、その住宅を住宅にというのは自力で直してくださいね、と

というのが基本やと思います。

橋本

なるほどね、でもこういうお年寄りの方もほっといたら空き家になっちゃう可能性がとても高いですよ、だからすごい有効な活用法ですよ。

岡田課長

そうだと思います。

伊藤

最後、受け入れられた方のシニアの方、年齢というのはだいたい何歳から何歳、

椋平主幹

ばらばらですね、**最高齢 90 歳**の方がいらっしゃったり、60代。50代の方はまだいらっしゃらないかなと。

伊藤

わたしあの地名というか地理がわからないのですが、あの 29 年度のところに、北部・南部への展開とか、30 年度に中部への展開といったことが書かれているが、北部・南部・中部というのは府内の話、たとえば京都市以外にも展開しているということですね。

岡田課長

そうです。単純に言えばそう捉えてもらえればよいです。北部というのが先ほど言った福知山とか舞鶴とか、大きいところはそういうところですね。中部というのはたとえば亀岡とか、そういうイメージをしてもらえれば結構です。

伊藤

舞鶴で受け入れているところがあるということですか、舞鶴のほうで。

岡田課長

そうですね、実は舞鶴には大学はないんですね。高等専門学校はあるんですが、高等専門学校は全寮制になりますので、大学があるというのがちょっとやっぱり実は北部の課題でございまして、それをサポートするためにこの制度を活用するというのをやっているんですけども、北部の方で、さきほど紹介した福知山で、いま二校がありますので。まあそういうところしか今はない。そこへのようは**学生支援だという意味も**ございます。

伊藤

わかりました。舞鶴はどれくらいかかるんですか、京都市内まで。

岡田課長

高速でいったら 2 時間ですか。

伊藤

車じゃなかったら

岡田課長

車じゃなかったら 2 時間半くらいですかね。

伊藤

電車で来られるんですか。

岡田課長

ええ、電車で 2 時かくらい。

橋本

規模が違いますね。

伊藤

日本海ですもんね、だってね。前、府議をやっていた岡本ちゅうぞうが仲間で、福岡は別の現職の岡本がや

ったんですけれども。

岡田課長

そうですか、建築の方でございますね。

橋本

この視察は結構あるんですか？この事業に対して。

岡田課長

去年ひとつ名古屋からありましたね。

橋本

じゃあまだ宣伝が足りませんね、もっとね。

いい事業ですもんね。

岡田課長

いいというか特色がある（笑）。

橋本

ちょっと興味がある

安竹

下宿自体が最近やっぱりそんなにないんですかね。

岡田課長

ほとんどないですね、やっぱりワンルームマンションですね。

伊藤

寮なんかも減っているくらいですもんね。

橋本

他人が入るのがやっぱり。

岡田課長

寮は大学の負担を減らすような感じで、どちらかいうたら、なくす方向。古い奴はなくす方向、でも、女子大とかいうのは、作るというのがありますね。それで逆に特色を持たしているというところが。はっきりいって大学生のためにやっているんじゃないくて、大学生を招き入れるために、大学の政策としてやっているような感じがありますね。

橋本

これ同じ大きさの部屋を借りるとしたら、だいたい民間だとどのくらいとられるんですか。

椋平主幹

比較できないぐらい広いんですよ。学生専用の部屋は8畳とか10畳なんですけど、それ以外にリビングがすごく大きかったり、キッチンが自由につかえたり、お風呂も広かったりして、比べると相当高い。

岡田課長

京都の相場はワンルーム 60,000 円くらい。

伊藤

小平より高いと思いますよ。

橋本

小平だと5万くらい。

椋平主幹

学生さんの傾向ですけれども、ワンルームマンションに暮らしはるか、あとは無理して遠方から2時間かけて通うというのが多うございまして、この住まい方を選んでいただける方にも、1年生の入学のころからという方もいらっしゃいますが、遠方から通っておられて、その通学時間を短縮してその分、社会福祉学部に

通ってらっしゃるんですけれども、実際に高齢者と暮らしたり、で、高齢者との地域活動を大学がやっていて、それに参加できるようになったり、特養でアルバイトできたり、学校の先生も、これは学生にとって非常によい住まい方になっているといったことをコメント頂いたり。

橋本

わかりました。

岡田課長

学生は変わりますんで、大学ゼミのサポートがあれば。

橋本

まだ一番長く入っている方で3年、これでいうと。

椋平主幹

2年前の9月から同居されている方がいま継続中で一番長いです。この春に卒業。

橋本

なるほど、なにかきいてみたいね。

椋平主幹

ぜひ土曜日お越しく下さい。

伊藤

安竹さん代わりにきいてきて報告をよろしく。

安竹

はい（笑）

伊藤

ありがとうございます。お忙しいお時間いただきありがとうございました。

以上